

主 催 公益社団法人平塚青年会議所

ひらつか

タウンミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 令和5年（2023年）8月21日（月）
午前10時から11時15分まで
- 2 開催場所 勤労会館 大会議室
- 3 参加者 中学生13人、大学生ファシリテーター11人



ひらつかタウンミーティングの様子

4 理事長あいさつ

皆さんおはようございます。ただ今、御紹介いただきました公益社団法人平塚青年会議所の理事長を務めております柳田康太と申します。

本日は、大変お忙しい中、落合市長をはじめ行政関係者の皆様、お越しいただいた皆様、このタウンミーティング2023DAY5に御参加いただき、ありがとうございます。

そして、本日を迎えるまでに多大なる御協力・御支援をいただいたこと、日頃より平塚青年会議所の運動に御協力をいただいていることにお礼申し上げます。

ひらつかタウンミーティングは、中学生の皆様が地域の課題について考え、そして行政に意見を提言する事業となっています。

振り返ってみますと、2017年に平塚青年会議所が「ひらつかスクール議会」を開催しました。当時は高校生を対象に実施していましたが、このように対象を中学生に代えて、また、地域の企業の方々とも連携を深めることで、より地域に近い事業として進化をしていると思っています。

ひらつかタウンミーティング2023、中学生の皆様が今日を迎えるまでに本当に活発な議論をしてきました。その中で、皆さんの熱い姿ですとか、大学生ファシリテーターの皆さんの支援のもとでの生き生きと活動されていた3か月の姿に胸を打たれました。

本日は、皆さんが今日まで議論してきたことを堂々と落合市長に伝えていただければと思います。本日が素晴らしい時間となることを祈念して、理事長のあいさつに代えさせていただきます。短い時間ではありますが、どうぞよろしく願います。

5 市長あいさつ

平塚市長の落合です。今日は、主催者であります公益社団法人平塚青年会議所の皆様、それから大学生のファシリテーターの皆様のお陰でひらつかタウンミーティング2023が開催されます。我々としては、こういう機会を持っていただき本当にありがたく思っています。

今回のひらつかタウンミーティングは7回目と聞いています。いろいろと今までの流れを聞いてきたと思いますが、私は、若い人たちが地域、それから平塚の問題を一生懸命考えてくれて、平塚がこのようになったらいいねという提言をしてもらえることは本当にありがたいと思っています。

今日は、テーマが「地域振興」と「防災」ということで、5つの中学校から13人の中学生に参加をいただいています。これまで取り組んできたいろいろな思いも含めて平塚市にその御意見をぶつけてくれればうれしいと思います。

皆さんからのお話をしっかり聞いて、市政に反映できるものはしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

是非とも、この機会が皆さんの人生の中で、こういう場で、こういう形で平塚市に意見をしたという良い思い出になるとともに、地域づくりや社会づくりに日頃から加わるきっかけになってほしいと思っています。今日は思っていることを発表してくれたらいいなと思います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

6 主なミーティングの内容

グループ1・地域振興

【生徒】

これから地域振興グループの発表を始めます。よろしくお願いいたします。

突然ですが、会場の皆さん、平塚といえば何だと思えますか？落合市長は、平塚といえば一番に何を思い浮かべますか？

【市長】

自然が豊かで住みやすい場所だと思います。

【生徒】

私たちは、平塚といえば何なのかを周りの友達や先生、家族にインタビューしました。その結果は、平塚といえば、七夕まつりという回答が一番多く、次いで湘南平、バラ、ベルマーレという回答が続きました。「平塚の特産物といえば何なのか」という問いに対しては、シラスが多く、次いでお米の品種である「はるみ」という回答が多かったです。

今回、私たちのグループのテーマは「地域振興」です。「地域振興」とは、平塚を盛り上げるものだと思います。私たちは、地域振興というテーマをもとに4日間でたくさんのことを学びました。今日は私たちが一生懸命考えた成果を発表します。(グループメンバー自己紹介)

【生徒】

私たちは、6月17日にフィールドワークを行いました。最初に、平塚市役所産業振興課の方から、平塚市の人口が減少していることを聞き、それが原因で産業人口が減り、平塚で平塚のものを消費できなくなっている現状を知りました。その後、湘南ゴールドを栽培する守屋さんのお話を聞きました。守屋さんは、湘南ゴールドを多くの方に届けるためにエナジードリンクを作っており、その地域にしかないものには、魅力が詰まっていると教えてくれました。その後、みんなで移動して、平塚茅ヶ崎魚市場に行き市場を見学しました。平塚ではアジやサバ、シラスがたくさん獲れるにもかかわらず、それが市民に届かないことを知りました。最後に平塚以外でも全国で有名な「高久製パン」の方からお話を聞きました。

実際に弦斎カレーパンを試食し、平塚に根差した商品を全国に売って知名度を上げる大変さと楽しさのお話を聞きました。フィールドワークを通して、私たちは平塚市の魅力を発見することができました。

【生徒】

続いて課題に移ります。フィールドワークやインタビューを通して、平塚の「地産地消」はあまり達成されていないという現状を知りました。平塚市の人口は転入超過である一方で、産業人口が減ってきています。これでは平塚のものを作っても平塚で売れません。さらに、最大の原因として挙げられるのは、私たちが地元のをあまりよく知らずにいたことです。私たちが普段美味しいと思い食べていたものが、実は平塚産であったことをフィールドワークを通して学び、驚きました。そして、平塚を盛り上げるために、私たちは「地産地消」に目を付けました。

これらの課題を解決するために、提言を行います。私たちの提言では、平塚で作られたものを、「どのようにして」地元の人に知ってもらおうかということに視点を置いています。提言により、「地産地消」を積極的に取り組むことで、平塚の特産物を知ってもらえると考えます。具体的な提言は3つあります。1つ目は、平塚の特産物をたくさん使った食品を作ることです。2つ目は、作った食品を市内の小中学校の給食に年に1～2回出してみんなに食べてもらうことです。3つ目は、給食を平塚限定のお弁当として売ることです。私たちは、平塚市の小学校や中学校で、平塚の食材をふんだんに使った「平塚メニュー」を積極的に給食に出していきたいと考えます。また、平塚メニューを使った、自分で選べるセレクト給食などでお楽しみ要素を交えつつ、平塚の特産物を児童や生徒、また多くの市民に伝えたいです。そして、具体的なメニューとして提案するのは、都まんじゅう、湘南ゴールドなどのデザートです。これらにより、流行や話題性が高くなると思います。お菓子やジュース、ゼリーなどの普段食べないもの、これらは、「レア度」から楽しみになると思います。また、はるみや平塚産の小松菜などだけを使用する地元食品を使ったコロッケや肉まん、水まんじゅうなどの季節が感じられるものを使ったら良いと思いました。

以上の提言から、以下の効果が見込まれます。1つ目は小学生を含む地域全体で給食として地元の食材を消費することで地産地消することが期待されます。2つ目は、平塚の名産を知ることができると期待されます。平塚市の小中学生が、平塚市の特産物に興味を持ち、平塚の産業を支える仕事が将来の選択肢になるかもしれません。3つ目は、平塚への愛が深まると考えます。これら3つの効果により、平塚市の地域振興に良いサイクルが生まれます。提言は以上になります。市長の前向きな検討をお願いします。

ここで市長に私たちから3つの質問があります。1つ目は、落合市長が政治活動の拠点として平塚市を選んだ理由や魅力は何ですか。御回答をお願いいたします。

す。

【市長】

私は、平塚市で生まれ育ちました。大学を除き地元の学校を出て、勤めも市役所に就職し、これまでずっと平塚市で生きてきました。私は家が農家で、その長男です。そういうこともあってか、平塚市は地域の絆が強く、温かいまちであると感じてきました。そして、このまちをもっと良くしていこうという思いが強くなりました。また、平塚市の特徴として農業では、県内でお米が一番取れるところ です。工業では、県内で6番目くらいの生産力があります。商業も盛んですし、観光も七夕があり、漁業もあります。このようにバランス良く産業が発達した平塚市をもっと活性化して、もっと良くしていきたいという思いで、市長としてまちづくりを進めています。

【生徒】

2つ目の質問に移ります。市長は、平塚市の特産品の中で一番前面に出したいものは何かありますか。御回答をお願いいたします。

【市長】

平塚市には名産品が22品、農水産物等で一次産品の特産品が9品あります。

名産品は、昨年度、5年に1度の見直しを行っています。これらを中心にPRをしていきたいと思っています。今回、見直しをする中で、市民の皆さんに投票していただきました。その結果は、「都まんじゅう」「弦斎カレーパン」「湘南こっからあげ」「湘南ボーイ」「くずバー」が市民の方々に好評でしたので、これら人気を集めた品を中心に、市内外にPRしていきたいと考えています。

また、特産品では、「湘南の晴れた海」をイメージして名付けられたお米の「はるみ」を新たに認定しました。県内で初めて食味ランキングで特Aを獲得した品種になりますので、こちらも積極的にPRしていきたいと思っています。

【生徒】

最後の質問に移ります。平塚市の「地産地消」の現状に対してどのように捉えていますか。

【市長】

おかげさまで、平塚市の人口は25万8千人くらいで、私が13年前に市長に就任した時とほとんど変わっていないのですが、日本全体で見ると人口は減ってきているので、平塚市も今後例外ではありません。年をとって亡くなる方と生まれてくる子どもの数を差し引きすると、どうしても自然減が多くなりますが、コロナをきっかけに、平塚に移り住んでもらえる転入が増えてきています。これは、平塚の魅力もあると思いますし、働き方の改革もあって東京や横浜に行ってもオフィスで働かなくてもテレワークで働くという選択肢もあり、生活様式も変わってきました。自宅に居ながら仕事ができるなど、働き方も変わってきましたが、そのような中で産業人口の減少や、良いものはあるけれど、なかなか「地産地消」に結びつかないと

というのが現状かなと思っています。難しい問題ですが、2024年問題と言って、流通業界で車があっても運ぶ人がいない等様々な課題があります。このような課題のある中でも、良いものを発信して、消費していくということを考えていくことによって、平塚市がバランス良く産業を発達している、うまく活用できるよう形づくりをすることが必要ではないかと思っています。皆に紹介してもらった中に、良いものはいっぱいあるので是非とも地域の皆様に食べてもらいたいと思います。

もう1つ、全国の食糧自給率というものがあって、本当は自分のところで作ったものを、自分のエリアで食べるという「地産地消」が100%であればいいのですが、日本は自給率が少ないです。カロリーベースで38%くらいなので、なかなか、自分のところで、自分のものをしっかり消費できるようになっていない状況です。

平塚は農業、漁業があり、生産したものを加工もできる魅力のあるまちだと思います。平塚では6次産業というものを進めています。農業、漁業でとれたものを加工して、それを売るということで、それら1次、2次、3次産業を足して、または掛けて6次産業と言います。「地産地消」を進めていくためには6次産業の進め方をいろいろと工夫していくことが必要だと考えますので、市としても考えながら進めていきたいと思っています。

グループ2・防災

【生徒】

皆さんこんにちは、今日は来てくれてありがとうございます。話をする前にクイズを出したいと思います。平塚市で起こる可能性がある災害はどれでしょうか。

【生徒】

1津波、2土砂崩れ、3洪水。この中で1つ選んで手を挙げてください。

(参加者が挙手)

答えは全部です。平塚市は海と山と川があるので、いろいろな災害が想定されます。では発表に移ります。

【生徒】

私たちのテーマは防災です。今回、テーマが2つある中で防災グループを選んだ理由は、先生に薦められたからです。参加する前は、防災への関心がなかったのですが、今は関心があります。

【生徒】

私たちは、6月17日にフィールドワークを行いました。まず、平塚市役所災害対策課の方から自助、共助、公助についての話を聞きました。また、ひらしん平塚文化芸術ホールの見附台公園に行き、災害時に利用するための水を貯めている非常用貯水槽を見学しました。それから江陽中学校へ行き、非常食などの物資を保管している防災倉庫を見学しました。さらに、湘南ナパサさんから災害時のラジオの使い方などについての話を聞きました。

【生徒】

フィールドワークを通して、自分で自分の命を守る「自助」や市が用意している防災設備を使うことで救える命が増えると感じました。

【生徒】

ここから、私たちのグループでは課題を2つ見つけました。1つ目は、災害時に自分で考えて行動するための機会や知識が足りないこと。2つ目は、普段の生活と災害を結びつける学びの場が少ないことです。

【生徒】

まず1つ目の課題について説明します。1つ目の課題がある理由としては、先生や大人の指示に沿って動くような避難訓練しか行われていないことや、地域の危険なところを実際に見る機会が少ないことが考えられます。そのため、多くの小中学生は災害時に自分で考え行動することができません。

【生徒】

次に、2つ目の課題について説明します。2つ目の課題がある理由としては、小中学校で、実際の状況や環境に合った避難訓練が行われていないことや、ハザードマップが身近ではないことがあると思います。そのため、多くの小中学生は災害を自分事として考えることができません。

この課題を解決するために、2つの提言を行います。1つ目は、それぞれの小中学校の特色に合わせて、避難訓練の内容を自分たちで考えることです。例えば、川が近かったら洪水の訓練をメインに行い、山が近かったら土砂崩れの訓練をメインで行うなど、学校がある地域や土地の特色に合わせた訓練を小中学生が考えて行います。友達にインタビューしたところ、地震が来た後に津波が来た場合や不審者が学校に来た場合など種類を増やした方が良いという意見もありました。また、移動教室のときや先生がいないときに地震が起きた場合など、普段の訓練とは違う状況を想定した訓練も行うべきだと考えました。さらに、何人かの生徒に怪我人役をしてもらい、クラスで協力してどう行動すれば良いかシミュレーションしたり、訓練でタイムアタックを行ったりするなど、小中学生が興味を持って楽しく、真剣に取り組める内容の訓練を行うのも良いと思います。

【生徒】

2つ目は、小中学校でハザードマップを作る授業を行うことです。通学路や家の周辺を実際に歩きながらハザードマップを確認し、自分たちでもハザードマップを作ります。その際、家から避難所までのルート歩き、土砂崩れが起きた場合など様々な状況を考慮して2～3通り以上のルートを考えます。また、校内を歩いて危険な場所などを確認して、学校内のハザードマップを作ります。さらに、学校の昇降口や踊り場などの目につきやすい場所にハザードマップを貼ることでハザードマップを身近に感じられるようにします。

【生徒】

最後に、これらの提言から期待できる効果を紹介します。これらの提言から小中学生が普段の生活から防災を意識するようになることで、災害時に市民を引っ張るリーダーになることが期待されます。政策提言は以上です。市長の前向きな検討をお願いいたします。

【生徒】

続いて、市長への質問に移りたいと思います。質問は2つあります。1つ目は、災害時に素早く正しい行動をできるようにするためには、日頃からの防災訓練が大切だと思います。そこで、平塚市の訓練は年に何回行っていますか。

【市長】

防災に対する提言、ありがとうございます。防災訓練をすることによって、地震や大雨を含めた災害に対する動きというものを体験してもらうことは、とても必要なことだと思います。

一昨日の土曜日に総合公園で、令和5年度総合防災訓練を開催しました。これは、大きな機関、例えば自衛隊、警察、消防等によるもので、人を助けることとか、電気やガスが止まった時にどのように復旧させるのかといった訓練を行っています。それを、皆さんに見てもらおうことで、もしも災害が起こった場合の平塚市の備えや対処を知っていただきたいと思っています。

それとは別に、各地域で防災訓練を行っています。例えば自治会や自主防災組織という、難しいのですが自治会とか町内会で、何かあったとき、誰がどういう役目をして、災害に対応しようかということで組織された自主防災組織というものがあるのですが、平塚は全国的にも珍しく、地域全体で見れば結成率は100%です。これは、関東大震災で大きな被害を受けたことが関係していると思います。

今年は関東大震災から100年の年です。平塚市は、その100年を節目としてしっかりと防災に力を入れていきたいと思っています。できたら是非、若い人には、そういうところに参加してもらって、防災の大切さを学んでもらいたいなと思います。

また、企業や学校などへ災害対策課職員が行って、防災訓練の支援を行っています。去年の実績では、193回の訓練をしました。参加者が延べ16,848人、学校関係では、小学校4校と中学校3校の合計7校で実施しました。学校ではいろいろな授業もありますが、学校で授業中や遊んでいるときに、もし地震等が起こった場合に、どうやって自分自身の身を守るかといった訓練をしっかり実施してもらいたいと思います。

【生徒】

2つ目の質問です。フィールドワークで見た江陽中学校の備蓄倉庫には離乳食の備えはありませんでしたが、乳幼児の避難対応についてはどうお考えですか。

【市長】

考え方として、まずは自分の身を守る「自助」です。どうやって自分の命を守

るか考えてください。そして、自分の命が守れたら、次に周りの人をどうやって助けるか、兄弟や親御さん、家族をどうやって助けるかそれを次に行ってください。それからその後、家が壊れたら避難所へ行って「公助」といって市や国の助けを受けてください。そして、最近に近い助けと書いて「近助」という助けがあります。「自助」で自分の身を守り、「共助」、「公助」を確認できたら、周りを見てもらって助けるというものもあります。これも地域のつながりを深める一つであると思います。「自助」「共助」「公助」というものがあるので、これらを原則としてやってもらって、その中で備えをしていくわけです。

備えとしては、昔は1週間分くらい必要と言われていましたが、今は3日間我慢してもらえば、国などの支援が得られることを前提に、備蓄の計画が立てられています。皆さんが災害が起きた時に、避難所でちゃんと暮らしてもらえるように、備蓄はしっかりとしていきたいと思っています。その中で乳幼児のものがなかったなというご意見でした。乳幼児については、お子さんによってもミルクが違っているので、共通して使えるものは、しっかりと総合防災備蓄というところに用意してあり、そこから各避難所に届けることとなります。今、指定の避難所が55か所あり、それぞれに防災倉庫があって、備蓄をしていますので、希望するところには総合的に防災で備蓄をしているところから届くような仕組みをしっかりと作っていきたいと思っています。乳幼児には、アレルギー対応の白がゆやリゾットをすり潰し、離乳食として代用することとしています。それから、0歳児用のミルク（粉・液体）及び使い捨て哺乳瓶を備蓄していますので、必要なものを必要なところに届けることができる体制を作りたいと思っています。

【生徒】

ありがとうございます。最後にグループを紹介します。

（グループメンバー自己紹介）

市長感想

今回は「地域振興」では、特に「地産地消」も含めて地域のいろいろな魅力をどのように広めていくか提案をいただきました。それから、「防災」の方は自分たちも意識をもって、災害に対応していこうという思いを伝えていただきました。

「地産地消」の補足となりますが、来年9月から中学校で給食が始まります。現在、田村に給食調理センターを造っていて、1日に小学校・中学校合わせて15,000食を作ります。その中に地元のものを使って、おいしい給食を提供する計画を進めていますので、中学生にも地元の良いものを、給食を通して感じてもらえたらいいなと思っています。

平塚はとても魅力のあるまちなので是非とも皆さんの提言のように、良いもの

を発信して、できたらこのエリアで多く消費してもらい、それが外に広がって、平塚って美味しいものがいっぱいあっていいねと食べてもらう。そういう地域を作っていきたいなと思っています。

「防災」の方ですが、首都圏直下型地震などいつ起きてもおかしくないと言われていています。

今年は、1923年（大正12年）の関東大震災から100年が経ちました。当時は、平塚は家が古かったので倒れる家が多かったわけですが、昔の災害対策は「身を守る」というものでした。今は、まずは自分の命を守る「自助」、それから周りを助ける「共助」、そして市や警察、自衛隊などの助けを待つ「公助」という考え方に変わってきています。

原則は、まずは地震が起きたり、大きな災害が起きたりした場合に、どうやって自分の身を守るのか、是非とも、意識を持って取り組んでいただきたいと思っています。

ついこの間も地震の揺れを再現する車、「地震体験車」を更新しました。これから各学校にも行って、体験をしてもらうことができると思っていますので、関東大震災や東日本大震災ではこんなに揺れたんだと体験してもらうことで、どうしたら自分の身を守れるのかということを考えていただきたいと思っています。

平塚市としては、そういう意識をもってもらい、備蓄も含め、災害に対応した準備をしていくことで、できるだけ災害の被害を小さくしていく、「減災」に努めていきたいと思っています。

このタウンミーティングを通して生まれた中学生のつながり、またサポートしていただいた大学生の皆さん、青年会議所の皆様との世代を超えたつながりを大切にしているいろんなことに活かして行ってほしいと思います。

最後にタウンミーティングに関わっていただいた皆さんにお礼を申し上げて挨拶に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

8 副理事長閉会あいさつ

皆様、お疲れさまでした。以上を持ちまして公益社団法人平塚青年会議所タウンミーティング2023を閉会いたします。どうもありがとうございました。

以 上